

令和2年度 社会福祉法人 進和学園 事業計画

「令和」という新しい時代を迎えましたが、少子高齢化、待機児童、生活困窮等の複雑な課題は高まっています。そのような影響を受けて変わりつつある地域の複合的ニーズの対応を社会福祉法人が求められる時代になっています。進和学園の障がい部門は、利用者ご本人の生活支援・就労支援・相談支援を、保育園部門は子育て支援を地域に根ざして展開してきました。昨今は発達障がいのある子どもたちを対象とした放課後等デイサービスの発達支援のニーズが高まっています。そして、令和2年度より地域の放課後児童健全育成事業「勝原学童保育会」の運営を保護者会の要望に応じて受託することになりました。地域のニーズに応える社会福祉法人としての役割を銘じて、共に生きる社会の実現に向けて取り組んでまいります。

今後の障がい部門の役割・機能については、ご本人の意思決定を尊重し、ライフサイクルの中で必要な支援を必要な時期に受けられる入所施設・グループホーム並びに日中活動支援事業所のサービス体系のさらなる推進を図ります。特に入所施設はセーフティネットとしての地域生活を支える拠点であり、引き続き短期入所等の機能を充実してまいります。権利擁護、虐待防止については、法人人権委員会を中心に各施設引き続き取り組んでまいります。保育園部門は、地域の期待に応えるべく子育て支援の充実に努めてまいります。

世界的な新型コロナウイルス感染の影響により、令和2年3月より社会活動が自粛され、日常生活や生産活動に大きな支障が出ており、今年度の事業にも大きな影響を及ぼしかねない状況となっています。感染予防に努める中で、今後の動向を注視してまいります。

進和学園は地域・社会に支えられ62年目を迎えます。本年度も「本人中心」の理念を徹底尊重し、利用者ご本人の幸せとご家族の安心のために職員一丸となって取り組むと共に、地域の社会資源として「福祉のまちづくり」「防災」についても貢献できるよう努めてまいります。

《重点課題 法人運営》

- 1 障がい部門、保育園部門に加えて放課後児童健全育成事業「勝原学童保育会」を保護者会の要望に応じて引継ぎ、令和2年度より平塚市から受託します。進和学園の人材、プログラム、機能等で総合的に勝原学童保育会の運営をバックアップしていきます。この機会を捉えて、子どもたちが福祉のふれあいを通して、多様な価値観を認め合い尊重する「ともに生きる社会」の醸成を目指してまいります。
- 2 福祉人材の確保・育成に積極的に取り組みます。確保については、新卒及び中途採用の推進を、採用人事サポートチームを中心とした体制で取り組みます。特に保育士の人材確保は大きな課題となっております。障がい部門と共同し養成校への学校訪問など工夫しながら推進していきます。育成については、職員養成委員会、人材育成・人事考課制度委員会、人権委員会等が中心になり、階層的な研修体制を推進します。
- 3 地域のニーズを事業に反映し、先駆的、創造的事業に取り組める体制を推進します。公益的な取組については現在、在宅障がい者に対する食事提供(実費)・生活支援、平塚市民の花なでしこの苗栽培と無料配布、湘南平あじさい管理、陶芸体験教室、地域ふれあい交流事業、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力等に取り組んでいます。さらなる展開に努めてまいります。

《重点目標 I 施設整備》

1 やましろホームの住環境の整備について

やましろホームは開設から34年が経過し、加齢により歩行困難な利用者が増えてきました。このため、住環境のバリアフリー化やエレベーターの増築及び調理室改修を引き続き推進します。エレベーター増築及び調理室改修工事については令和2年2月5日に建通新聞に一般競争入札広告を掲

載し、入札参加業者は匠建設、コラム建設、小島組の3社となり、3月10日に入札実施し匠建設が落札しました。安江設計研究所（株）が設計監理し令和2年11月の完成を目指します。また自閉的傾向や行動障がいのある利用者ご本人にとっては、大きい集団での活動が難しい面があります。そのため日中活動のスペースや雨天時の活動場所が必要です。隣接するあさひホーム等との包括的対応で引き続き検討してまいります。

2 グループホームの拡充について

利用者ご本人の支援度の高まり、ご家族の高齢化などを理由に入所のニーズは高まるものの、国の方針として入所定員は増えることはありません。よってグループホームの休日・夜間体制の強化と障がいの重い人でも利用できる体制が必要となります。小規模な暮らしを基本としたバリアフリーのグループホームを、引き続き検討してまいります。平成29年5月に法人で取得した、万田地区一戸建て住宅のグループホーム化へ向けて進めてまいります。特に入所、在宅からの体験利用を促進する体験型グループホームの必要性もあります。今後、グループホームの設置申請は平塚市と調整して、スプリンクラーの設置や用途変更の確認申請をして参ります。

《重点目標Ⅱ 施設運営》

1 保育園部門の運営について

「しらゆり保育園」は、令和2年3月に給食設備の改修工事を終えましたので、令和2年4月より主食の提供をおこない食の安全と食育に努めます。また、令和元年度途中より借用することとなりました「いずみ保育園隣接地の農地」を各保育園共有効に活用しながら土に触れ野菜を育てる食育活動などの充実に努めるとともに、各保育園間での在園児の交流及び職員の人事交流等をおこない、保育の質を高められるよう取り組みます。

2 人材育成の推進について

階層別研修と各施設でのスーパーバイザー方式の人材育成・定着を人材育成・人事考課制度委員会を中心に、キャリアアップ研修、国家資格取得奨励を、職員養成委員会をおこないます。職員の資質向上に資する外部を含めた研修参加を、職員個々の希望もくみ取って推進します。人権委員会及び職員養成委員会協調による人権擁護に係る研修も、引き続き積極的に推進してまいります。

3 人事考課制度の確立について

職務遂行・貢献度に応じた自己評価・施設評価・法人評価を給与面・昇給等に反映している等制度は、運用5回目となります。階層、職域に応じた評価軸の設定や、管理職が一時考課、二次考課を担当することも3回目となり、より適正な評価に近づくものと思います。人材育成・人事考課制度委員会を中心にさらに内容の検討、改訂を推進してまいります。

4 運営システムやITの活用等について

業務の効率化を推進し、引き続きグループウェアシステムの改善・充実に努めていきます。またネットワークを有効活用した、ペーパーレスや遠隔地間での会議、サーバーのクラウド化を慎重に検討及び実験導入してまいります。ホームページについてはリニューアルから1年半が経過し、運用においても安定してきました。引き続き情報の公開・発信を推進し、地域社会からの理解や人材確保につなげてまいります。情報管理体制は常に確認し、安全なネットワークの運用に努め、情報漏えいに注意を払います。

5 生活体系の検討・推進について

①ビーライトしんわ（定員10名の中高生の放課後支援、定員10名の発達障がいを有する中高生のグループ療育支援）としんわブライト（定員10名の発達障がいを有する小学生を中心とする児童へのグループ療育支援）の2事業所で放課後等デイサービス事業を運営し、他事業所での受け入れが難しい重度障害や発達特性を有する児童を積極的に受け入れることで地域に貢献します。事業環境の変化を把握し実状に応じた運営形態を模索し続けながら、地域の支援ニーズに応える専門的な知識と技術のさらなる向上に引き続き取り組みます。

- ②高齢化、重度化に対し、健康管理に最大限配慮し、医療機関と連携して各種検査を行い早期発見、早期治療に努めます。また一人ひとりに個別的な支援が必要なため、介助技術等の向上を引き続き図っていきます。衛生面に対しても、保健、給食との総合的協力体制のもと、徹底してまいります。
- ③地域生活支援の拠点機能の推進として、在宅の方、グループホーム、単身生活者等を支えるために各入所施設を中心に、緊急受入の短期入所、災害時の防災拠点、相談機能、専門性推進等の機能を強化していきます。他の法人、福祉関係団体等との連携も強化し「防災」「福祉教育」に取り組んでまいります。

6 相談支援事業について

サンシティの相談支援事業では、行政機関より委託を受けて実施している相談業務において年々発達障がいや引きこもり、家族支援が必要な場合等難しいケースが増えています。一般相談およびサービス等利用計画作成のもと相談支援を行ってまいります。またピーライトしんわは障がい児相談事業に取り組み、その業務の充実には専門資格取得が欠かせないため、引き続き中堅職員を中心に外部研修を計画的に推進します。またサンシティにおける就労援助部門では、障害者の新規就労や就労した後の定着支援のニーズが非常に高まっており、各方面（企業、労働行政、福祉サービス、教育）との連携の上、多くの方々の支援に努めます。

7 就労移行支援事業について

しんわルネッサンス就労移行支援事業は、平成 20 年 4 月 1 日に定員 20 名で指定を受け、一般就労を希望されている主に特別支援学校を卒業された方を受入れ、支援プログラムを提供し、就労の準備性を高める事で一般就労への支援を行ってまいりました。しかし、平成 30 年 4 月、障害者法定雇用率の引上げを背景として、特別支援学校卒業後すぐに一般就労される方も増え、新規利用者は減少傾向にあり、利用希望はさらなる減少が予想されます。令和 2 年度の新規利用希望者は 4 名となり実員は 9 名になります。平成 30 年度の報酬改定で報酬形態は定員に対して一般就労へ移行した人数の割合で算出される仕組みへと改定されました。令和 2 年度は、就労支援プログラムの再構築を行う事で、質の高い支援・充実したサービス提供を目指し、地域ニーズに応じた運営形態へと移行すべく、定員を 10 名に変更します。今後も利用者ご本人の自己実現に向け、就労支援に対する専門性を高め、ご本人・ご家族・地域のニーズに応えるべく運営してまいります。

8 作業体系について

- ①ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業(株)様のご支援のもと発注を頂いて 46 年目になります。本田技研工業(株)様よりの受注は減少傾向にありますが、(株)研進との協同で継続して受注確保に努めるとともに、「顧客満足」を目指して ISO9001 : 2015 の推進に努めます。
- ②自動車部品組立作業以外の今年度作業収入目標は、きびしい情勢を踏まえ、前年度同様の 1 億 7 千万円とします。
- ③自主生産事業は、昨年度に引き続きサンメッセ、ルネッサンスが平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、市内商工関係者と連携のもと製品開発、販路拡大、イベント参加に努めてまいります。特にサンメッセ製パン事業は学校給食、市場等への拡大を図ると共に、食品表示法の改定に伴い 4 月から栄養成分表を追記した表示へ切り替えます。今年度も事業の販路拡大と衛生管理の徹底に努めてまいります。サンメッセの「湘南みかんぱん」と、ルネッサンスの「トマトジュース」は、平塚市ふるさと納税返礼ギフトに登録されると共に、平成 30 年 4 月より湘南ひらつか名産品としても認定されています。
- ④ルネッサンスの農産品加工事業は、7 年目を迎える年間を通し生産も安定して来ました。今年度はさらなる品質向上を図り事業推進に努めます。また、6 次産業化ネットワークの活動を継続し、体制維持を図ります。また安全衛生管理を徹底し、HACCP(食品の製造過程管理基準)の取得に努めます。
- ⑤施設外就労は継続して、地元しまむらストア様のバックヤード作業と環境整備等の作業請負と今年度より(株)ゴバイミドリ様(いのちの森づくり作業請負)について取り組んでまいります。
- ⑥在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用は、しまむらストア様、荒井ベジラス様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となります。今後も制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めてまいります。

- ⑦いのちの森づくりは(株)研進と共同で、学校の森づくりをはじめ、湘南国際村、浜松植樹プロジェクト、NEXCO 高尾・小仏植樹祭、秦野植樹祭に参加する他、さらなる開拓を推進します。また他法人施設との連携（どんぐりブラザーズ）にも努めます。
- ⑧ルネッサンスは湘南西地区及び平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワークの構築、受注作業のマッチング機能を推進します。年々、受注量は増加傾向にあり連携事業所も増えてきており、更なる協力体制の推進に努めてまいります。
- ⑨「ともしびショップ湘南平」は、平成 28 年度より「サンメッセしんわ」と一体的に運営してきました。平成 30 年 3 月 25 日(日)に内装を一新して、リニューアルオープンをしました。1 階の喫茶部門は令和 2 年 1 月より(株)研進から引き継ぎ、ホットケーキの店「湘南リトルツリー」として進和学園内で生産するパン類やトマトジュースなどを食材として活用するメニューを揃えています。販売部門は自主生産品やお土産グッズ等を常設販売しています。2 階は活動スペースエリアとして、平日は、サンメッセご本人の作業や家族ボランティアの工房として活用し、また、各種イベント、レンタルスペースとしても幅広く活用していきます。
- ⑩平塚市役所の 1 階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は本年 7 月で丸 6 年を迎えます。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となりますが、本年も進和学園が、その事務局を担当し事業を推進していきます。また生産事業推進会議パフォーマンス部会の FM 湘南ナパサ 78.3MHz のラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜 19:00~19:30 生放送)に利用者ご本人が中心に参画しており、本年も福祉現場からの情報発信、福祉啓発に努めてまいります。

令和 2 年 3 月 26 日
社会福祉法人 進和学園